

不二の祈り ～上原行照大阿闍梨様厳修～

お護摩の様子



お加持の様子



「富士の祈り」ではなく、「不二の祈り」とした理由は、二つとないこと、また、二つに見えるが実際は一つである、「ふに」という意味を富士山にかけました。「不二の祈り」は、今年3年目を迎えました。上原大阿闍梨様は、比叡山でご用事を済ませ、日帰りという強行スケジュールにも関わらず、皆様の祈りを一心に祈願してくださいました。小雨が降る中、参列して下さった皆様には、厚く御礼申し上げます。お護摩を手伝っていた法嗣の話では、御加持の時、阿闍梨様の気迫に鳥肌が立ったそうです。それほど、思いを込めて祈っていただいた皆様の願いは、大願成就されることでしょう。成就した内容で多く耳にするのは、「良縁成就」です。何人もの方から、お礼を言われますが、すべて、阿闍梨様とお不動様のお力です。お護摩の後の本堂内は、護摩独特の音が聞こえます。清められた本堂に入るたびに、阿闍梨様の偉大さを感じずにはられません。東円寺の不動明王は、江戸時代は富士山の一合目鈴原社に安置されていました。自然災害が続く昨今、大難が小難に、小難が無難に済ませていただけるよう、不動明王に心からお願いさせていただきました。今年も、無事に「不二の祈り」を開催できましたのは、関係者の皆様のご協力のお陰です。重ねて御礼申し上げます。

月日の経つは、白駒の隙を過ぐるが如しいといいますが、年を重ねる事に一年が短く感じるこの頃です。檀信徒の皆様にはお変わりもなくご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年も一月二十八日の初不動、交通安全祈願祭、四月二十四日の子育て地藏尊大祭、十月三日の不二の祈り、さらにお会式等、東円寺の大事な一年の行事を、皆様のご協力により無事盛大に執り行うことができました。衷心より感謝申し上げます。

又、今年のお盆には、長年途絶えていた精霊流しが、新盆ご遺族の皆様及び関係各位のご理解、ご協力により再開しました。世界遺産忍野八海に縁ある信仰行事の一つとして後世に残したいと願っています。これからも東円寺の更なる発展を目指し努力を重ねますのでご支援宜しくお願い申し上げます。

合掌

～仏参金納入口座のお知らせ～

郵便口座

記号10800 番号6654231

口座名 トウエンジ 又は 東圓寺

※キャッシュカードでの振り込みですと、手数料が掛かりません。

山梨中央銀行

忍野支店 口座 普通

121086 東円寺

観音堂再建基金

～寄付者芳名～

11月吉日

渡邊 久信殿 20万円

平成28年

11 末月現在積立額

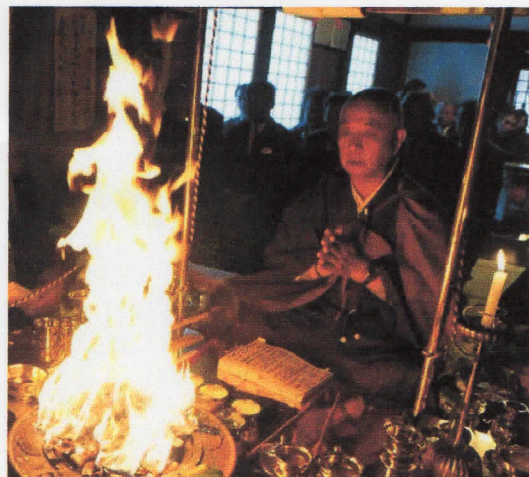
24,309,659 円也

初不動大護摩嚴修 富士山鈴原目黄不動尊

お護摩の様子

交通安全祈願祭 1月28日 午後2時より

東円寺の初不動大祭は、交通安全祈願祭が主であります。昭和40年代、自動車の普及により、死亡事故が急増しました。これを受けて、当時の忍野村交通安全協会会長様の発願によって交通安全祈願祭が行われ、現在に至っています。以後、富士吉田警察署からも署長さんを始め数名の署員さんがお越しくださっています。忍野村におきましては、交通死亡事故ゼロが一昨年6千日を突破し、山梨県知事から表彰されています。現在も更新中です。人の悩みは尽きません。年初め、今年が良き年となりますよう心を込めて祈祷させていただいております。別紙にて、祈祷申込用紙をご用意させていただきました。合格祈願等も受け付けております。不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。



◆のぼり幡奉納寄付◆

随時受け付けております。1枚3千円
祈願申込みは、当日混雑が予想されますので
1月20日までにお願い致します。

※当日受付可

師走の砌、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

さて今回は、皆さんにも身近なお墓参りについてお話したいと思います。一般的にお墓参りとは春秋のお彼岸、お盆、ご命日などに、お墓へお線香やお花をお供えし、静かに手を合わせることをさします。

先日、お檀家さんとのお話のなかでお仏壇とお墓の話になり、「お仏壇やお墓ではお願い事は避けた方が良く」と聞いたが、どうすれば?と聞かれました。朝お線香をお供えしご先祖様へご挨拶だけをしていると聞きます。そもそもお仏壇やお墓は、偶像としての仏様(阿弥陀様や観音様など)とご先祖様としての仏様がおられるところです。仏様へ手を合わせ、お願い事や日頃の感謝、悩み事、吉事凶事の報告、様々なことを祈ることはごく自然なことであり、それによって我々の心を豊かにすることが、仏様がおられる理由の一つだと思います。

大晦日には、仏様への日頃のご恩の感謝と来年の抱負を胸に、是非東円寺へ除夜の鐘を「ゴォン」と撞きに來て下さい。終わりに、皆さんのご健康とご多幸を祈念して年末のご挨拶とさせていただきます。

慈法 記

～大晦日には、除夜の鐘を撞きましょう～

毎年12月31日の夜中より元旦にかけて、除夜の鐘を撞いています。除夜の鐘は一年の終わりであると同時に、新しい年の始まりでもあります。行く年来る年の要に響き渡る鐘の音と共に、新年に向けての新たな決意を呼び起こしてくれます。是非、東円寺の除夜の鐘を撞きに來てください。温かい汁物や甘酒などをご用意してお待ちしています。

お願い
泥酔状態での
鐘突きはとても
危険なので
やめましょう。



寺庭のつづやき

檀信徒の皆様には、平素より東円寺に対しまして温かなご支援ありがとうございます。一年を振り返りますと、様々な行事がありました。この行事を滞りなく務めることができましたのは、皆様のご協力のお陰と衷心より重ねて御礼申し上げます。

1月28日初不動尊祭、3月春彼岸、4月24日地藏尊大祭、6月先祖供養団参、7月盆・8月7日新盆施餓鬼・16日精霊流し、9月19・20日諏訪明神大祭・秋彼岸、10月3日不二の祈り、11月3日お会式、12月31日除夜の鐘、3月から12月の8日に八海周辺清掃等々、年間行事は盛りだくさんです。しかし、不二の祈り、八海周辺の清掃活動以外は、古い歴史を継承しております。清掃活動については、忍野八海が世界文化遺産の構成資産となる以前から、継続してきた活動です。この活動を継続することによって、未来に向かって美しい忍野八海を守る布石であると信じています。また、不二の祈りについては、富士山世界文化遺産の根幹である日本人の富士山に対する思いを象徴した行事です。千日回峰行者上原阿闍梨様によって、富士山一合目に祀られていた不動明王の御前で、お護摩を継続して厳修させていただけるご縁は、様々な仏様のお導きがあったのことに感じております。

「祈り」には、不思議なパワーが備わっています。人は皆、様々な悩み不安を抱えて生きています。悩みや不安から逃れるための手法は、千差万別で、手法によっては、有効的な方も、効果のない方もおられるかもしれません。けれども、祈りは、願ったことが叶わなくても、祈る行為によって、心は救われることを体験されている方は多いのではないのでしょうか。

寺院といえば、葬儀や法事を執り行う所と思われる方は多いようですが、本来の役割は「祈りの場」です。寺院に住まう者の役目は、祈る場所が心地いい空間になるよう、整えることだと思っています。東円寺には、祈りの対象となる仏様が大勢いらっしゃいます。行事を行うことは、準備・当日・後片付けを繰り返しているのですから、関係者の負担は、想像以上です。東円寺の様々な行事は、意味深いものばかりです。すべての行事に参加することは難しいことですが、年間行事に心を置いていただきご参加いただきますようお願いいたします。今年も一年間大変お世話になりました。来年も東円寺の更なる発展に精進して参りますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

御詠歌講中募集

東円寺の行事に欠かすことの出来ない御詠歌ですが、御詠歌の唄に耳を傾けたことはあるでしょうか。御詠歌というのは、御仏様の慈悲深いお心が詰まった唄と、唄に合わせた旋律は、心の目を開き、耳を傾けることによって深く沁みてくるものです。また、人間として生まれたことの喜びを実感していただくことができるものです。御詠歌のお仲間を募集しています。お仲間を誘ってご参加ください。

※3月～12月 第2・第4月曜日
午後2時～3時



一隅会会員募集

天台宗の一隅を照らす運動は、信仰と実践に基づく天台宗の社会啓発運動です。東円寺では、忍野八海が富士山世界文化遺産の構成資産に登録される以前から、忍野村を訪れた方々が自然の豊かさに心と癒しをお帰りいただけるよう、ささやかですがお手伝いをと考え、忍野八海周辺また、新名庄川の河川清掃をしております。伝教大師様の教えであります、『己を忘れて他を利する』ということを実践しております。この趣旨に賛同くださる方を大募集しております。お仲間を誘ってご参加ください。

※八海清掃は毎月8日に行います。

1・2月はお休みです。3月より再開いたします。変更する場合は事前にご連絡させていただきます。

諏訪明神大祭

9月19日～20日

忍草の人々にとって、秋の諏訪明神大祭は特別なものです。一般的に「お神輿」と言いますが、村人は「お神輿様」と言います。「お神輿様」が家に来てくれることは名誉であると考えられています。名誉だと感じる理由には、幸せが運ばれてくると信じているからです。その気持ちは尊いと思います。その象徴が、今年のお祭りでした。台風の中、びしょ濡れになった体を震わせながら、大勢の方がお祭りに参加していました。お神楽や獅子舞も、雨の影響で例年より時間がかかっていましたが、丁寧に奉納されました。ご先祖様から受け継がれた尊い精神だと感じます。東円寺では、温かいそうめんと、おにぎりをふるまいましたが、何よりのご馳走は、熱燗だったようです。諏訪明神大祭のクライマックスは、お宮橋を渡る・渡さない・と、お神輿を神社に向かわせようとする人と、もう少しねり歩こうとお神輿をバックさせる人が押し合いをします。今年は、さすがにあっという間に神社へお帰りになりました。そのお陰で、東円寺で行われた直会は、午後11時過ぎには区会の皆様、神主さんや役員さんもお帰りになりました。午前0時には片づけも終わることができました。今年も無事に諏訪明神大祭が終えられたことを嬉しく感じました。



どしゃ降りの雨の中、カッパを着てお手伝いしていただきました



～お会式ご報告～

天台宗ではこの時期にする行事を、一般的に霜月会と言います。しかし、東円寺では、江戸時代から「お会式」と言っていました。なぜ、そう言われてきたのか分かりませんが、江戸時代当時の寄付台帳の表紙に、「お会式」と書かれてあります。

東円寺のお会式は、「両大師会」（天台大師様と伝教大師様）という言い方が正式名称なのかもしれませんが、両大師様に報恩感謝する行事だからです。東円寺の行事には、全檀家対象のお施餓鬼がありませんので、このお会式は先祖供養もかねています。山梨県には天台宗寺院がないため、以前は、近隣の他宗派のお坊さんにお手伝いいただいていた経緯があります。他宗派にお手伝いをお願いするということは、天台宗の儀式という視点では、限界がありました。現在は、住職と法嗣が話し合い、また、アドバイスをくださる方が近隣にいてくださることから、儀式についても試行錯誤を繰り返しています。

御詠歌も、昨年までは、法要の前に住職がお唱えしていました。今年は、寺庭が御詠歌の一員として初めて参加させていただきました。法嗣の感想は、「去年までは住職が、法要前に忙しそうにしていたけれど、今年は法衣の支度がゆっくりできて良かったです」と話していました。今年のお会式は、「光明供錫杖」をしました。声明中心の密教の有り難いお経を、10名の和尚さんに誦読していただけたことは、ご本尊様を始めとする様々な仏様、また、ご先祖様は喜んでいただけたと思います。

本堂内・法要の様子



御本尊様の前に並べられたお位牌

